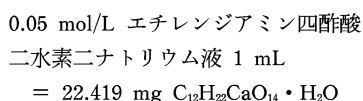


純度試験

- (1) 溶状 本品 1.0 g を水 50 mL に加温して溶かすとき、液は澄明である。
- (2) 酸又はアルカリ 本品 0.50 g に水 20 mL を加え、加温して溶かし、冷後、0.01 mol/L 塩酸 0.10 mL 及びフェノールフタレイン試液 2 滴を加えるとき、液は無色である。これに 0.01 mol/L 水酸化ナトリウム液 0.30 mL を加えるとき、液は赤色に変わる。
- (3) 塩化物 本品 0.40 g をとり、試験を行う。比較液には 0.01 mol/L 塩酸 0.80 mL を加える (0.071 % 以下)。
- (4) 硫酸塩 本品 1.0 g をとり、試験を行う。比較液には 0.005 mol/L 硫酸 1.0 mL を加える (0.048 % 以下)。
- (5) 重金属 本品 1.0 g に水 30 mL 及び希酢酸 2 mL を加え、加温して溶かし、冷後、水を加えて 50 mL とする。これを検液とし、試験を行う。比較液は鉛標準液 2.0 mL に希酢酸 2 mL 及び水を加えて 50 mL とする (20 ppm 以下)。
- (6) ヒ素 本品 0.6 g に水 5 mL を加え、加温して溶かし、希硫酸 5 mL 及び臭素試液 1 mL を加え、水浴上で加熱濃縮して 5 mL とする。これを検液とし、装置 B を用いる方法により試験を行う (3.3 ppm 以下)。
- (7) ショ糖及び還元糖 本品 0.5 g に水 10 mL 及び希塩酸 2 mL を加えて 2 分間煮沸し、冷後、炭酸ナトリウム試液 5 mL を加え、5 分間放置し、水を加えて 20 mL とし、ろ過する。ろ液 5 mL にフェーリング試液 2 mL を加えて 1 分間煮沸するとき、直ちにだいたい黄色～赤色の沈殿を生じない。

乾燥減量 1.0 % 以下 (1 g, 80 °C, 2 時間)。

定量法 本品を乾燥し、その約 0.4 g を精密に量り、水 100 mL に溶かし、8 mol/L 水酸化カリウム試液 2 mL 及び NN 指示薬 0.1 g を加え、直ちに 0.05 mol/L エチレンジアミン四酢酸二水素二ナトリウム液で滴定する。ただし、滴定の終点は液の赤紫色が青色に変わるときとする。



貯法 容器 密閉容器。

グルコン酸クロルヘキシジン液

Chlorhexidine Gluconate Solution

クロルヘキシジングルコン酸塩液

本品はクロルヘキシジンの二グルコン酸塩水溶液である。

本品は定量するとき、グルコン酸クロルヘキシジン

($\text{C}_{22}\text{H}_{30}\text{Cl}_2\text{N}_{10} \cdot 2\text{C}_6\text{H}_{12}\text{O}_7$; 897.76) 19.0 ~ 21.0 w/v% を含む。

性状 本品は無色～微黄色の澄明な液で、においはなく、味は苦い。

本品は水又は酢酸 (100) と混和する。本品 1 mL はエタノール (99.5) 5 mL 以下又はアセトン 3 mL 以下と混和するが、溶媒の量を増加するとき白濁する。

本品は光によって徐々に着色する。

比重 d_{20}^{20} : 1.06 ~ 1.07

確認試験

- (1) 本品 0.05 mL にメタノール 5 mL を加え、臭素試液 1 mL 及び 8 mol/L 水酸化ナトリウム試液 1 mL を加えるとき、液は濃赤色を呈する。
- (2) 本品 0.5 mL に水 10 mL 及び硫酸銅 (II) 試液 0.5 mL を加えるとき、白色の沈殿を生じ、この沈殿は沸騰するまで加熱するとき、淡紫色を呈する。
- (3) 本品 10 mL に水 5 mL を加え、氷冷し、かき混ぜながら水酸化ナトリウム試液 5 mL を徐々に加えるとき、白色の沈殿を生じる。この液をろ過し、残留物を水で洗い、薄めたエタノール (7 → 10) から再結晶し、105 °C で 30 分間乾燥するとき、その融点は 130 ~ 134 °C である。
- (4) (3) のろ液を 5 mol/L 塩酸試液を用いて中和した後、この液 5 mL に酢酸 (100) 0.65 mL 及び新たに蒸留したフェニルヒドラジン 1 mL を加え、水浴上で 30 分間加熱し、冷後、ガラス棒で内壁をこするとき、結晶を析出する。結晶をろ取し、熱湯 10 mL に溶かし、活性炭少量を加えてろ過する。冷後、ガラス棒で内壁をこすり、析出する結晶をろ取し、乾燥するとき、その融点は約 195 °C (分解) である。

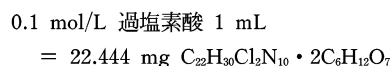
pH 本品 5.0 mL を水 100 mL に溶かした液の pH は 5.5 ~ 7.0 である。

純度試験 4-クロロアニリン 本品 2.0 mL に水を加えて正確に 100 mL とする。この液 5 mL を正確に量り、水 20 mL 及び 1 mol/L 塩酸試液 5 mL を加え、亜硝酸ナトリウム試液 0.3 mL を加えて振り混ぜ、2 分間放置し、次にアミド硫酸アンモニウム試液 4 mL を加え、1 分間放置する。次に *N,N*-ジエチル *N'*-1-ナフチルエチレンジアミンシユウ酸塩・アセトン試液 5 mL を加えて 10 分間放置し、エタノール 1 mL 及び水を加えて 50 mL とするとき、液の色は次の比較液より濃くない。

比較液: 4-クロロアニリン 0.020 g を 1 mol/L 塩酸試液 10 mL に溶かし、水を加えて正確に 100 mL とする。この液 5 mL を正確に量り、水を加えて正確に 100 mL とする。この液 5 mL に水 20 mL 及び 1 mol/L 塩酸試液 5 mL を加えて以下同様に操作する。

強熱残分 0.10 % 以下 (2 g, 蒸発後)。

定量法 本品 2 mL を正確に量り、水浴上で蒸発乾固し、残留物を非水滴定用酢酸 60 mL に溶かし、0.1 mol/L 過塩素酸で滴定する (電位差滴定法)。同様の方法で空試験を行い、補正する。



貯法

保存条件 遮光して保存する。

容器 気密容器。